

武豊町議会議長 石川 よしはる 殿

武豊町議会議員 石川 喜次

一 般 質 問 の 通 告 に つ い て

令和 8 年第 3 回武豊町議会定例会において、次のように質問したいから通告します。

質 問 事 項	質問の要旨(具体的にご記入願います)
1. 公共交流拠点整備事業について	【趣旨説明】 人口減少や少子高齢化の進行、防災減災対策の重要性の高まりなど、まちを取り巻く社会経済情勢が大きく変化する中、武豊町では、名鉄知多武豊駅周辺からＪＲ武豊駅、さらに武豊中央公園周辺までを一体的な拠点として、概ね 20 年先を見据えた長期ビジョンである「名鉄知多武豊駅西グランドデザイン」を令和 5 年 3 月に策定しました。 その後、公共交流拠点の実現に向けた整備方針や全体像を示す「武豊町公共交流拠点基本構想」が取りまとめられ、町ホームページでは令和 7 年 3 月に公表されています。構想では、多世代の交流を育む拠点形成と防災拠点の形成が示され、策定過程では意見募集に加え、民間活力の導入を見据えて現地見学会やサウンディング市場調査も実施されました。 さらに直近では、令和 8 年 7 月に、公共交流拠点に整備を予定する役場庁舎、保健センター、交流施設等の機能、規模、配置などを検討する公共施設等基本計画の策定委員の募集が行われており、構想段階から、より具体的な段階へ進んでいることを踏まえ、以下質問をいたします。 【質問事項】 ① 公共交流拠点の整備にあたり、町は直営方式を含む公設公営、公設民営、PPP 方式、定期借地権の活用など、どのような事業手法を比較検討の対象としているのか。併せて、手法ごとに、財政負担の平準化、民間活力の導入の可能性、リスク分担といった観点で、どのような整理を行っているのか伺います。 ② 公共交流拠点整備では、役場庁舎、保健センター、交流施設などの整備が想定されています。町は、新たな庁舎に求める行政機能と、交流施設に求める交流機能について、それぞれどのような役割を持たせ、なぜ同じ拠点内で一体的に整備する必要があると考えているのか伺います。 ③ 公共交流拠点の事業推進にあたり、民間活力の導入を検討するのであれば、民間事業者が参入可能と判断するための採算条件を町としてどう整理しているのか伺います。特に、収益機能の導入余地、契約条件、公民の費用負担やリスク分担について、どのような考え方で検討しているのか、お尋ねします。 ④ 公共交流拠点整備は、庁舎、保健センター、交流施設など、今後の町の公共機能のあり方を大きく左右する重要な事業です。町は、基本構想の策定段階で住民ワークショップや地区懇談会、パブリックコメントを実施してきましたが、基本計画の策定段階では、町民参加をどのような形で進め、どのような層の意見を把握していく考えか伺います。

2. 保育園の熱中症対策について	【趣旨説明】 今年も記録的な暑さが続き、35度を超える猛暑日の日数が平年を大きく上回っています。武豊町においても、7月から8月にかけて10日を超える猛暑日が観測され、熱中症警戒アラートが連日のように発令されました。 このような厳しい気象状況の中、乳幼児は、体温調整が未熟であり、気温や湿度の影響を受けやすいため、熱中症のリスクが高いと考えられます。加えて、身長が低いため地面の照り返しの影響も受けやすく、遊びや運動に夢中になることで、体調の変化や水分補給の必要性に自ら気付きにくい面もあります。さらに、小さなこどもは不調をうまく訴えられないこともあるため、周囲の大人による丁寧な観察と適切な対応が極めて重要となります。 そこで、保育園における熱中症対策について、以下質問をいたします。
	【質問事項】 ① 保育園における熱中症予防について、町はどのような基準や判断のもとで日常的な対策を行っているのか。また、熱中症に関する当日の情報を、いつ、誰が、どのような方法で確認しているのか伺います。 ② 気温や暑さ指数の把握は、各施設でどのように行っているのか。また、外遊びや園庭活動、水遊びなどの実施、中止、時間短縮の判断基準はどのようになっているのか伺います。 ③ 園児等への水分補給や休憩は、どのような頻度と方法で行っているのか。特に乳幼児が自ら不調を訴えにくい中で、職員はどのような点に注意して見守っているのか伺います。 ④ 日よけ、ミスト、遮熱対策、空調設備の活用など、施設や園庭における暑さ対策はどのように進めているのか伺います。